

チャレンジプロジェクトの取組状況

◆しあわせ信州創造プラン2.0において、2030年の長野県のあるべき姿や将来像に向かって取り組んでいく政策の方向性として掲げたチャレンジプロジェクトについて、以下のとおり取組を推進

1 人生を豊かにする創造的な「学び」の基盤づくり

【2018の取組】

- かつて経験したことがない人口減少時代の本格的な到来などの大きな変化に対応し、新たな価値の創造の基盤となる長野県の「学び」を実現するため、根底となる学びの本質を捉える議論を実施
- 未来の「学び」の姿を議論するため、ICT技術を活用した最先端のオンライン学習等について事例研究

【2019の取組】

- 学びの本質を捉えるための議論を更に深め、創造的な「学び」実現のための具体的施策の検討を進める

2 共創を促進するイノベティブな産業圏づくり

【2018の取組】

- グループ別（技術開発・活用、大学・研究機関、ビジネスモデル関連）協議や先進地視察を実施
- オープンデータ活用促進、地域課題に対応する新ビジネス支援などについて、課題を整理し方向性を検討

【2019の取組（関連事業）】

- 共創形成に向けた方策や支援体制等について、産業イノベーション推進本部と連携して検討を実施
- (新)産業支援機関連携体制の構築 1286万3千円
⇒ 資料1-3 産業労働部 No.9の一部
- AI・IoT等先端技術活用・開発支援
5915万9千円(2019万5千円) ⇒ 資料1-3 産業労働部 No.1

3 未来に続く魅力あるまちづくり

【2018の取組】

- 「未来に続く魅力あるまち」をデザインするための方向性の検討や、これまでの施策整理及び先進地視察の実施
- 支援を行う「公・民・学」が参画するプラットフォーム型の組織の構築検討

【2019の取組（関連事業）】

- 信州地域デザインセンターを設置し、市町村と協働でまちづくりを行い、魅力的な公共空間を創出
- 信州地域デザインセンターの創設
1275万4千円(73万6千円) ⇒ 資料1-3 建設部 No.13

4 美しく豊かな木と森の文化の再生・創造

【2018の取組】

- 外部有識者との意見交換、国内外の先進地視察等を踏まえ、メンバー間で議論し、課題や対策等について次のとおり整理
- ①木や森を活かす人づくり(人材育成、木曾伊那フォレストバレーの形成等)
- ②木や森と人とのつながりの再生・創造（「里山入会林野制度」の実現、企業と連携した森林の多面的利用、多様なビジネス創出の拠点づくり等）
- ③森林の活用による自立した社会の構築(新しい森林経営管理体制構築等)

【2019の取組（関連事業）】

- ①～③を具現化するため、フォレストバレーの形成や地域・企業との連携などについて、更なる検討を実施
- (新)新たな森林管理のための体制づくり 6189万3千円
⇒ 資料1-3 林務部 No.1
- 「信州やまほいく」の活動フィールド等の整備
532万5千円(532万5千円) ⇒ 資料1-3 県民文化部 No.16の一部

5 安心できる持続可能な医療・介護の構築

【2018の取組】

- グループ別（健康づくり、医療、介護）協議や有識者との意見交換、先進地視察等を実施
- 持続可能な社会保障提供体制の構築には、提供側だけでなく県民ニーズを基にした施策立案への発想の転換と、各分野の施策を連動させ継続的に循環していく仕組みが必要との認識を共有
- 県民ニーズを経年的なスパンで的確に把握・分析し、各分野の実施主体に対して働きかけを実施していく方向性で取組を検討

【2019の取組（関連事業）】

- 医療・介護・健診のデータ（県民ニーズ）を一元的に集約し、各施策を連動させる基礎となるビッグデータ分析基盤を構築
- (新)健康長寿ビッグデータの分析・活用 3978万9千円
⇒ 資料1-3 健康福祉部 No.5の一部

6 人生のマルチステージ時代における多様な生き方の支援

【2018の取組】

- 誰もが「いつでも、何度でも人生のスイッチが入れられる」長野県に向けて、マルチな生き方の実践者・応援企業から学ぶ
くいただいたキーワードの例
・学び：好奇心にあわせた学び、学びたい時に学べる（フォルケフォイスコーレ）
・プロジェクト型・ティール組織：メンバーによる自主的な運営体制
・リーダー的人材：メンター、インフルエンサー
・クリエイティブ・フロンティア：楽しい不便・なつかしい未来
- メディアとの連携<日経ビジネスRaise「新しい働き方を考える」セミナー参加>

【2019の取組】

- 「働く」意味の再構築、これからの高齢化社会の姿の検討
- 学びや就業支援に関する既存施策の再評価、意味づけの検討
- メディアとの具体的連携の検討

「学ぶ県組織」への転換

【2018の取組】

- 社会環境が急速に変化する中であって、職員一人ひとりが「学びと自治の実践者」として新たな知識や技術を主体的に学び続けるとともに、職員の能力を最大限に活かす機能的な組織のあり方について検討

【2019の取組（関連事業）】

- 部局横断による政策議論の充実
 - スペシャリスト人材化の推進、管理監督者への早期登用、多面観察の導入検討
 - 県が取り組む政策の現状や課題、方向性について、政策に関係する分野の当事者との意見交換を公開で実施
- (新)対話重視の政策形成の推進 150万8千円 ⇒ 資料1-3 総務部 No.2
- 職員のキャリアステージに応じた体系的な研修の実施とともに、資格取得など自主的な能力開発を支援
職員研修の実施・自己啓発活動への支援 2616万9千円(2613万9千円) ⇒ 資料1-3 総務部 No.3
 - RPA適用業務を拡大（3→30業務）、AIの導入検討
モバイルパソコンへ順次移行し、ペーパーレス化や場所・時間にとらわれない多様で柔軟な働き方を実現
「先端技術活用推進課」を新設し、先端技術を活用した新たなサービスの社会実装を推進
スマート県庁の推進 3700万4千円(1566万3千円) ⇒ 資料1-3 企画振興部 No.12